

B型肝炎ワクチン接種の必要性について

重要：必ず一読すること

【B型肝炎とワクチン接種の意義】

B型肝炎ウイルス(hepatitis B virus : HBV)は、日本では、約130～150万人(およそ100人に1人)が感染していると推定されており、血液媒介感染をする病原体としては最も感染力が強いとされています。HBVに感染すると30～50%が急性肝炎を発症し、そのうちの1%弱が劇症肝炎となり、その相当数が致命的転帰をとるとされています。また、急性肝炎の1%程度で慢性肝炎へと移行するとされています。移行し進行した場合、肝硬変や肝臓がんになることもあります。そのため感染のリスクがある場合、これらの発症や重症化を防ぐために、事前にワクチン接種を行うことが非常に重要です。

HBVは針刺し、患者さんへ利用した鋭利物による切傷、血液・体液の粘膜への曝露、小さな外傷や皮膚炎など障害された皮膚への曝露でも感染が成立する場合がありますと言われています。そのため、「医療関係者のためのワクチンガイドライン(日本環境感染学会)」においても、患者さんや患者さんの血液・体液に接する可能性がある場合はB型肝炎に対して感受性のあるすべての医療関係者に対して、B型肝炎ワクチンの接種を実施しなければならないとしています。この医療関係者には、学生や実習生も含まれています。

【B型肝炎ワクチン接種に関する皆さんの状況】

B型肝炎ワクチンは多くの国では小児期に接種することになっていますが、日本ではまだ希望者のみ接種する任意接種となっているため、皆さんの多くが過去にB型肝炎ワクチン接種をしていない状況にあります。そのため、実習に出る前にワクチン接種をして抗体をつけておく必要があります。ワクチン接種は3回を1クールとしており、規定の日程で3回1クールを接種することで、十分な抗体をつけることができるため、忘れずに3回接種してください。

また、一度ついた抗体も5～10年で低下すると言われていきますので、就職や進学してからもしっかりと抗原抗体検査とワクチン接種をする必要があります。

【問い合わせ先】

ワクチン接種について不明な点がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

自己判断での未接種、接種中断はせずに必ずご相談下さい。

事務手続き：保健管理センター係 5号館3階

hokekan@ml.tmd.ac.jp

その他：保健管理センター 5号館2階(内線5081)